

平成 28 年 9 月 1 日
四国電力株式会社

伊方発電所 2 号機 余熱除去系統ベント配管のひび割れについて

第 23 回定期検査中の伊方発電所 2 号機（加圧水型、定格電気出力 56 万 6 千キロワット）の原子炉補助建家（管理区域内）において、余熱除去冷却器 A 出口配管のベント弁の下流側配管にほう酸と思われる付着物が認められたため、液体浸透探傷検査を実施したところ、8 月 31 日 15 時頃、同配管の溶接部にひび割れがあることを保修員が確認しました。

配管の付着物を分析した結果、付着物はほう酸であり、配管内のほう酸水が溶接部のひび割れからにじみ出て、乾燥したものと推定しました。

この付着物の放射エネルギーは約 7 ベクレルで、にじみ出たほう酸水の量は付着物の重量から約 10 ミリリットルと推定しました。

なお、当該溶接部およびベント弁からの漏えいがないことを確認しています。今後、当該溶接部のひび割れの原因について詳細調査を実施します。

本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。

液体浸透探傷検査

材料表面に液体を塗布し、目視では確認できないような微細な傷を検出する検査。

（添付資料）伊方発電所 2 号機 余熱除去系統概略図

以上

伊方発電所 2号機 余熱除去系統概略図

